

「腰痛いー」

篠山東雲高 手際良く田植え



にぎやかに田植えをする篠山東雲高の1年生=丹波篠山市福住で

篠山東雲高校1年生(23人)が18日、同校の実習田(約15ア)で手植えによる田植えを行った。季節を先取りしたかのような厳しい日差しの下で、横一列に並び、泥にまみれながら丁寧にコシヒカリの苗を植えた。水田の端から端に渡したロープを目印に、20秒の等間隔で苗を植えた。

2023年5月25日

丹波新聞

生徒たちは、「腰が痛くてやばい」「脚がつった」などと悲鳴を上げながらも、手際よく作業を進めていた。

1年生の恒例の取り組みで、農業文化を知り、コメがどのようにして育っていくのかを学ぶ総合実習の一環。実りの秋には、鎌で稲を刈り取り、稲木に掛けて乾燥させる。2年生以降は、田植え機を操縦して田植えを行う。

さん(西紀中出身)は、「家が農家なので泥には慣れているけれど、手植えの経験はあまりないので、不安定な中で踏ん張る足がしんどかった。自分たちで作ったお米はおいしいに決まっている。秋が待ち遠しい」と話していた。